
一般演題 | 手術 (POP)

LSC RSC

座長:石川 哲也、森山 真吾

2023年8月5日(土) 17:10 ~ 18:05 一ツ橋ホール (日本教育会館 3F)

17:25 ~ 17:30

[1A47P]当院におけるロボット支援仙骨腔固定術 (RASC) の治療成績

○吉尾 裕子¹、岡本 堯¹、金原 弘幸¹ (1. 恩賜財団済生会松阪総合病院 泌尿器科)

キーワード: 骨盤臓器脱、ロボット手術

【目的】当院において骨盤臓器脱(POP)に対するロボット支援仙骨腔固定術 (RASC) を2022年8月より開始した。これまでに当院においてRASCを施行した症例について、その安全性や有用性を検討することを目的とした。【対象と方法】2022年8月より2023年5月の間に、当院においてPOPの診断のもとRASCを行った20例を対象とした。患者背景、手術時間、出血量、合併症等、これまでに当院にて施行した腹腔鏡下仙骨腔固定術 (LSC) と比較検討した。さらに、我々の行ったRASCの手技に関して、問題点等を検証した。【結果】LSC、RASCの患者背景はそれぞれ、平均年齢 (歳) 74.4 (72-80) : 77.5 (53-79)、BMI (kg/m²) 25.3 (18.4-28.8) : 23.6 (17.2-30.2)。POP-Q stage はLSCではIII : 2例、IV : 3例、RASCではIII : 16例、IV : 4例、子宮摘出後症例はLSCで0例、RASCで4例であった。手術時間 (分) は314±60.2 : 299.5±46.6、気腹時間 (分) 270.6±54.2 : 262.1±45.9、出血量 (g) 92.6±168.8 : 34.7±66.1であった。RASCの術中合併症として腔壁損傷1例、術後腓骨神経麻痺を1例で生じた。【結論】LSCと比較して手術時間、出血量等については遜色のない結果であったが、RASC特有の手技に関して習熟が必要と考えられた。